



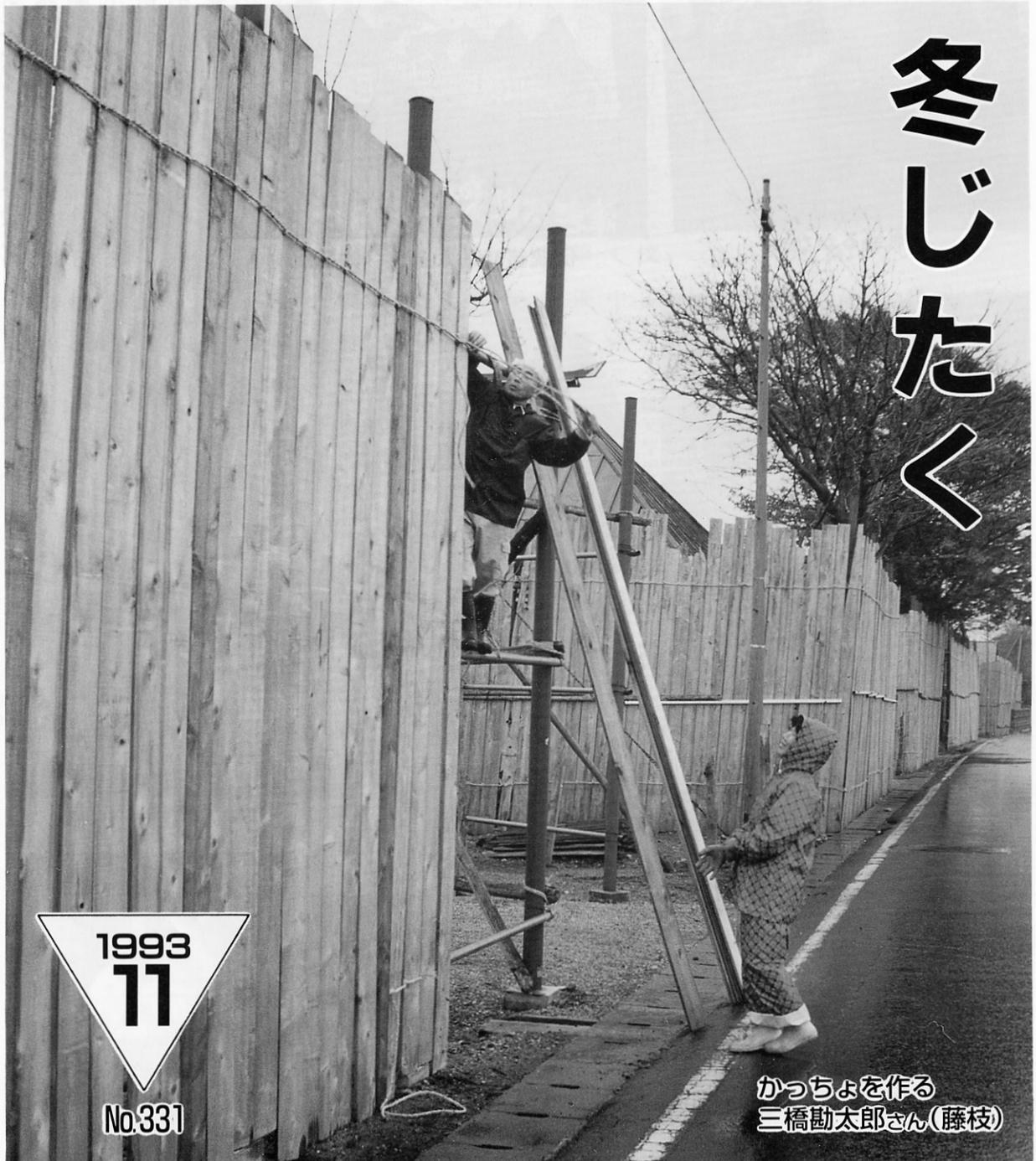
広報

かなぎ

編集と発行

金木町企画室

青森県北津軽郡金木町
大字金木字朝日山323
電話 53 2111 内線240



冬じたく

1993
11

No.331

かっちょを作る
三橋勲太郎さん(藤枝)

'93 金木町文化まつり

文化の秋



大凧当るかな～

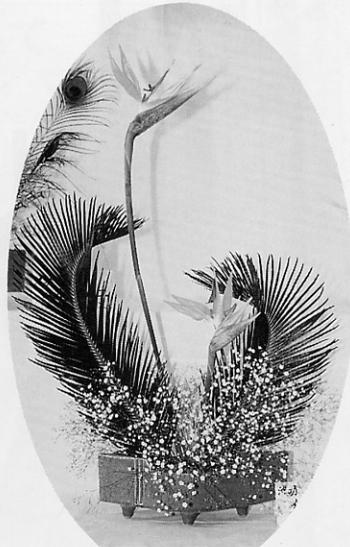


伝統芸能勤太・金兵 大盛況

文化の秋に親しみ、文化の発展を目指すため、「'93金木町文化まつり」が、十一月二日～四日までの三日間、中央公民館とトレーニングセンターで開かれました。



まあ!!ス・テ・キ



今にも飛びそう

例年、文化まつりと同時に開催されている産業まつりは冷害のためやむなく中止されたものの、会場は催し物や展示物を熱心に見入る町民でごったがえしていました。



見事決った、アクロバット



わい、これいいじゃ



かわいい～ マメ奴



こうしてる時が一番幸せ



第3回町民歌謡チャンピオン

スポーツの秋

第15回金木町総合体育大会



力走、負けないわよ

去る十月十日、金木中学校を主会場に、スポーツを愛する老若男女が一同に会し、第十五回金木町総合体育大会が行われました。

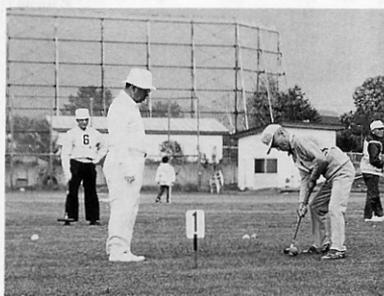
当日は、昼頃から雨が降ってきたものの、参加した選手たちは日頃の練習の成果を思う存分発揮していました。

大会成績は次のとおり。
陸上の部

- 男子
- 小学校四年一〇〇M
優 勝 松川剛大(嘉瀬)
- 小学校五年一〇〇M
優 勝 藤元誠寿美(喜良市)
- 小学校六年一〇〇M
優 勝 宮崎秀人(喜良市)
- 小学校共通二〇〇M
優 勝 斉藤江紘(金木)

- 小学校共通一、五〇〇M
優 勝 前田清人(金木)
- 小学校共通走幅跳
優 勝 米谷貴之(金木)
- 小学校共通ボール投げ
優 勝 浅利 潤(川倉)
- 学校別四〇〇R
優 勝 金木小学校A
- 中学校一年一〇〇M
優 勝 斉藤昌志(金木南)
- 中学校二年一〇〇M
優 勝 大橋架早男(金木南)
- 中学校三年一〇〇M
優 勝 芦田嗣大(金木南)
- 中学校共通一、五〇〇M
優 勝 奈良岳薫(金木南)
- 中学校共通スウェーデンR
優 勝 金木中学校A
- 女子
- 小学校四年一〇〇M
優 勝 今夢香里(喜良市)
- 小学校五年一〇〇M
優 勝 木村陽子(嘉瀬)
- 小学校六年一〇〇M
優 勝 中谷憲子(金木)
- 小学校共通二〇〇M
優 勝 津田奈央子(嘉瀬)
- 小学校共通八〇〇M
優 勝 小山内良恵(金木)
- 小学校共通走幅跳
優 勝 北川小牧(金木)

- 小学校共通ボール投げ
優 勝 白川真美(川倉)
- 学校別四〇〇R
優 勝 嘉瀬小学校A
- 中学校三年一〇〇M
優 勝 泉谷美幸(金木)
- 中学校共通八〇〇M
優 勝 工藤千夏(金木)
- バレーボールの部
優 勝 臙脂会チーム
- 卓球の部
- 小学校四年男子
優 勝 岩村暢寿(嘉瀬)
- 小学校四年女子
優 勝 阿部南美(金木)
- 小学校五年男子
優 勝 橋本慎也(金木)
- 小学校五年女子
優 勝 鳴海有香(嘉瀬)
- 小学校六年男子
優 勝 白川大貴(嘉瀬)
- 小学校六年女子
優 勝 伊藤園美(嘉瀬)
- 中学校男子
優 勝 其田優也(金木)
- 中学校女子
優 勝 伊藤留美(金木南)
- 一般男子
優 勝 小田桐久二(金木)
- 一般女子
優 勝 津島恵美子(金木)



今日も調子はいいいみたい

- ゲートボールの部
優 勝 喜良市Bチーム
- 相撲の部
- 小学校一年
優 勝 白川遼介(川倉)
- 小学校二年
優 勝 野呂卓司(嘉瀬)
- 小学校三年
優 勝 松尾大志(金木)
- 小学校四年
優 勝 中村陽仁(金木)
- 小学校五年
優 勝 蒔田雄市(金木)
- 小学校六年
優 勝 沢田匡宏(金木)
- 中学校一年
優 勝 増田匡紀(金木)
- 中学校二年
優 勝 澤田雅彦(金木南)
- 中学校三年
優 勝 小野貴史(金木)

秋の叙勲

勲四等瑞宝章

農業振興功勞

中谷 藤太郎さん (70)

川倉林下



中谷藤太郎氏は、昭和二十五年川倉農業協同組合理事に就任して以来、金木農業協同組合長、県経済農業協同組合連合会長、全国農業協同組合連合会副会長、全国りんご協議会長など数々の役職を歴任。町はもちろんのこと、県の農業振興に多大な功績を残したことが認められ、勲四等瑞宝章の榮譽に輝きました。中谷氏は「今回の叙勲は農家、市民の皆様の長きに亘るご支援のたまものであり、心からお礼と感謝を申し上げます。」と語っていました。

少年力士が荒磯部屋で稽古

当町嘉瀬出身の荒磯武親方（元小結二子岳）が東京都国立市に荒磯部屋を創設し、八月二十九日には横綱曙の土俵入りや一門連合稽古などで盛大に土俵開きが行われました。十月九日、この出来たての部屋を、芦野クラブ、金木クラブの小・中学生力士と父母ら合わせて三十六名が訪れ、土俵を借りて稽古をつけてもらいました。



荒磯部屋を訪れた少年力士たち

少年力士たちは部屋を見学

した後、さっそく真新しい土俵に上がり、部屋の力士の胸を借りぶつかり稽古などで汗を流しました。次の日全国少年親善相撲立川大会に出場することもあつて稽古にも大いに熱が入っていました。稽古の後に親方が本物の「ちゃんこ」を用意して下さり

少年力士たちもプロ力士さながらといった感じで何杯もおかわりするなど、心地良い汗の後のごちそうに舌つづみを打っていました。今回の貴重な体験で、少年力士たちもますます精進し、明日の横綱目指して頑張ることでしよう。

川倉賽の河原に山門完成

このほど、川倉賽の河原地蔵尊に山門が完成し落慶法要が行われ、七十人の関係者で完成を祝いました。

この山門は、かねてから賽の河原の入口が分かりづらく

山「両側に設置された仏像などが入る升には「賽の河原」「地藏尊」の文字が記された立派な山門は賽の河原の見所の一つとなりそうです。

一目で分かる目印にしたいと計画されていたもので、七五〇万円をかけ総ヒバ造りの高さ八・五m、幅五mにも及ぶ巨大なものです。

中央に「川倉



完成した賽の河原の山門

レポート

自然農法は 冷害に強かった

昨年、広報かなぎ六月号で紹介した「自然農法」の原田勘衛門さんとたまたま会う機会があり、今年の米の出来具合の話しを聞くことが出来ました。

今年、どこへ行っても「冷害」「皆無」といった話題しか聞こえてこないのが、平年作でも一般の田んぼより収量の的に不利な自然農法では当然「皆無」だろうと思ひ原田さん

今年、どここの田んぼを見ても黄金色に輝きこうべを垂

れている稲穂は無く、触ってみてもほとんど実が入ってないのが実情だったため、まさかと思ひ田んぼを見せてもらうことになった。

秋晴れの十月十五日、長富



手前が自然農法の稲。奥が一般の稲

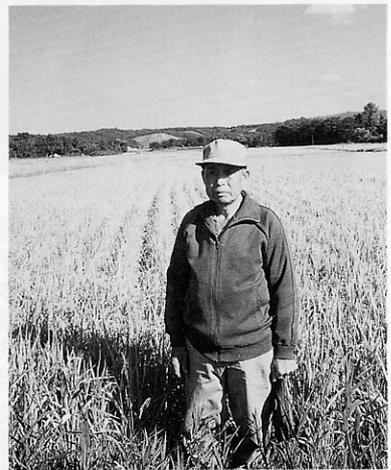
の部落から一キロ弱位東側に入った所に原田さんの田んぼがあった。見た途端「普通の田んぼだ」と思った。普通とは平年のことで、黄金色に輝いた稲穂が見事にこうべを垂れていた。この田んぼは圃場整備もされておらず、金木より南側でしかも周りに雑木林があったので、ひよっとしてヤマセの

影響が少なかつたのではと思ひ隣の田んぼに目をやると、しっかりと起立し青々とした稲が並んでいて実が入っている様子は全くなかつた。何でこんなに違うのか不思議そうにしていると、原田さんが「同じ一枚の田でも高い低いがあつて、この辺は低いから割りと良かつた。高い所は全然だめだ」と言つた。確かに同じ一枚の田の中でも良い所悪い所は見ただ目で分かる。なぜ同じ田んぼで？と聞くと「低い所には水がよく行き渡つたから」と言う。

今年の夏場は暑くならず、例年の一カ月遅れの九月五日にやつと花が咲いたという。いつもの年ならこの時期には田んぼから水を落として乾燥させているので水は必要としない。しかし、今年に限っては花が咲いたのが遅かつたため水が必要だつたが、必要量の水が水路にはなかつたと言ふ。少ない水をポンプで汲み上げたものの満足のいく量には達しなかつたのだそう。水路を挟んだ次の田んぼを指差し「見れば分かる」とおりあそこは全然駄目だ。少ない水をポンプで組み上げただけでも一日で一枚の田んぼしか水を入れることが出来なくて、あそこは少ししか入らなかつたんだ」と言うので近くに歩き稲を触ってみると、なるほどさつきとは全然違う。けれども、全然駄目といつても一般の田んぼに比べればかなり実が入っているように感じる。他の田んぼよりは全然良いよと話すとき「そりゃあ少しは良いさ。自然農法の田んぼは他の田んぼより地温が二℃も高いんだから」と原田さん。

前にも紹介したが、自然農法は、土作りが大事でワラをすき込みバクテリアを繁殖することで農薬も肥料も使わなくても済むというもの。この方法により地温が二℃高くなると言うが科学的な根拠は何一つ解明されていないのも事実である。これに興味を示した某大学で研究しているそうだが解明するにはまだまだ時間がかかりそうである。収量は平年と比べものにならないというが、地温が二℃高い田んぼと水管理によつてこうべを垂れるまで実が入つたという事は、明らかに冷夏にもある程度の耐久性があつたものと思われる。

作況指数ゼロの下北で、同じ自然農法により半作を確保したというニュースにもあるとおり、戦後最悪の冷害で自然農法が冷害にも強いことが証明されたことになるのではないだろうか。



改たりめて自然農法の良さを
知りましたと原田さん

南中女子生徒が赤ちゃんだっこを体験

このほど、金木南中学校（校長＝藤田信範）で『赤ちゃんをだっこしてみよう』と題した実習が行われ、三年生女子生徒が、生れて間もない赤ちゃんのだっこを体験しました。



おそろおそろ赤ちゃんをだっこする生徒たち

おうというのがねらい。赤ちゃんだっこした生徒たちは、母親の大切さ、命の尊さをそれぞれに感じ取っていたようです。

赤ちゃんをだっこした感想文が届いていますのでご紹介します。

【赤ちゃんをだっこして】

鳴海 千秋

私は病院に着くまでに、「うまく抱けるかなあ」という不安な気持ちでいっぱいでした。病院に着いて、初めにお腹の中にいる胎児の心臓の音を聞きました。「ドクッ、ドクッ」と、とても早くとても力強い音で、母親に「元氣だよ」と知らせているように聞こえました。それから赤ちゃんをだっこさせてもらいました。

私がだっこした赤ちゃんは、産まれてまだ数日という赤ちゃんでした。抱いたとき軽いうような気がしましたが、やがて「命」という重みが私の腕の中をかけめぐりました。で

もミルクの時間だったらしく、すぐに泣いてしまいました。病室にいたお母さんたちの我が子を見守る目は、とても優しく、輝いていました。

産まれて六時間くらいのお赤ちゃんをお風呂にいれてあげるところを見学しました。赤ちゃんは手に何か触れていないと不安だそうで、手にタオルをかけると思議なことに泣きやみました。赤ちゃんは顔を洗われているときとても気持ちよさそうでしたが、お腹や背中を洗われていたときは泣いていました。

私はお話ししている看護婦さんの一言一言に感動してしまい改めて、母親になるということはずごく大変だけど、とてもすばらしいことなんだなあ」と思いました。何年か先もし私が母親になったら、あのお母さんたちや看護婦さんのような優しい目で我が子を見守っていききたいです。

吉村 祐子
前に赤ちゃんを抱いたのは

小学生のころで、もうどんなふうにして抱いたのか忘れてしまっていたので、どうしようなんて思っていた。看護婦さんたちは笑顔で迎えてくれたので、緊張もあまりしなくなっただけでも。

赤ちゃんを見たとき愛らしいなあと思った。実際抱いてみると軽いと思っていたのに結構重みがあって、一つの生

食と健康展開催

十月八日、保健センターで胃ガン・大腸ガン検診と同時『食と健康展』が開催され約八十人の参加者がサービを受けます。



検診の合間にバランス食の説明

命の重さを感じられずにはいられませんでした。「昨日の夜産まれたんですよ」と聞かされたとき、私が学校で勉強しているときとか、スポーツとしているときとか、今のように寝ているときとか、知らない間にたくさんの生命が産まれてきているということを感じいらされました。

食と健康展は「食生活を見直そう」をテーマに、町と青森県生き生き健康県民運動五所川原保健所地域実践会議が行ったもので、ヘルシーメニューでお馴染の食生活改善推進員の方々が検診に来た皆さんに朝食のサービスをしたり体力測定やパネル、ポスターの展示などで健康食普及運動を展開しました。

朝早くから検診に来ていた人たちは、思わぬ朝ごはん「朝食付きの検診なんて初めて。大変ありがたいです」とヘルシーな朝食に舌つづみを打っていました。